

第17期うきたむ学講座（2025年度）

第2回講座

講座③

『赤色立体図から見る山間地の遺跡や地形 —中世城館跡を中心に—』

南陽市教育委員会社会教育課 史跡文化主幹
角田 朋行氏

令和8年3月1日（日）

会場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

赤色立体図からみる山間地の遺跡や地形 —中世城館跡を中心に—

1. 赤色立体図とは

- 1) 航空レーザ測量
- 2) 立体図(赤色、CS)
- 3) データの活用
- 4) 立体図の閲覧やデータの入手

2. 立体図を用いた地形と遺構の判読と事例

- ① 災害地形
- ② 産業遺跡(炭窯跡)
- ③ // (鉱山跡)
- ④ 古墳や塚
- ⑤ 城館跡

→ 立体図で明らかになった主な館跡
(新規発見等: 7か所)

3. 城館跡

- 1) 縄張図と立体図 ⇒ 略図
- 2) 南陽市の山城(紹介)
 - ① 小滝館
 - ② 下萩館
 - ③ 岩部山館
 - ④ 虚空蔵山館
 - ⑤ 二色根館

南陽市 角田朋行

1

1. 赤色立体図

1) 航空レーザ測量について

航空レーザ測量は、航空機からレーザ光を地上に照射し、その反射から地上の標高や地形の形状を調べる測量方法です。樹木が繁茂していてもあまり影響を受けません。

2) 立体図(赤色、CS)とは？

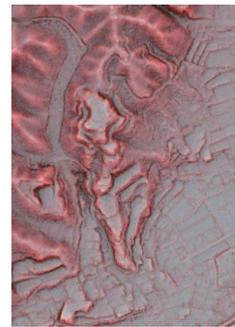
赤色立体図は、航空レーザ測量で得られた数値地形データを立体的な地形表現に加工したもので、地図というより解像性の高い画像です。→ 地表面に現れている遺構を把握するのに適しています。



1/25000地形図



1/5000地形図

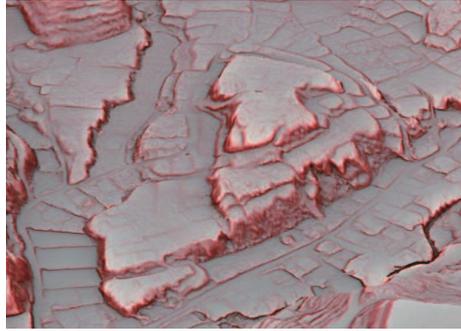


赤色立体図

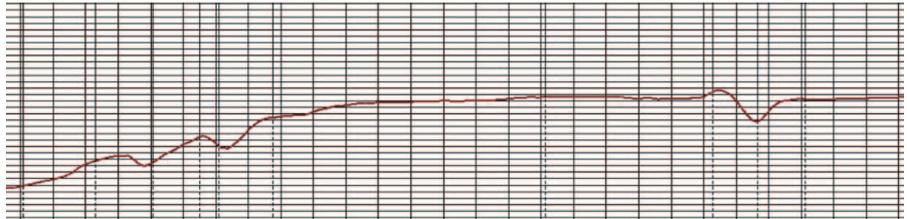
2

3)データの活用

①鳥観図の作成



②縦横断図の作成



赤色立体図を公開するホームページが増えており、WEBで閲覧が可能になってきました。

- ・国土地理院(基盤地図情報)や林野庁等の官公庁WEB
- ・航空レーザ測量データポータルサイト
- ・個人ホームページ。

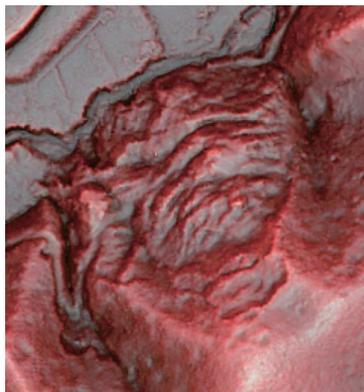
※南陽市教育委員会の赤色立体図は、全国文化財総覧HPからダウンロード可

2. 立体図を用いた地形と遺構の判読

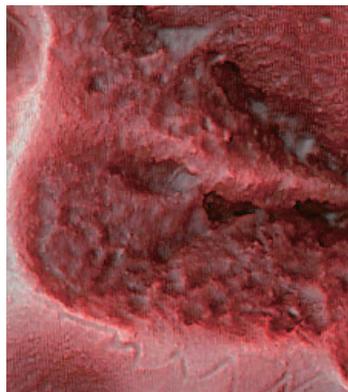
1)災害地形



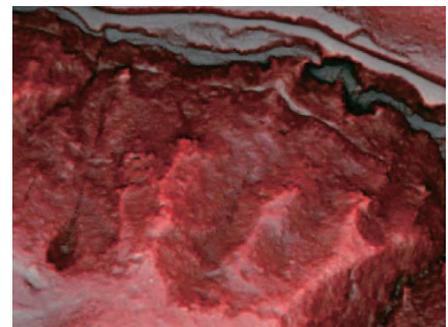
小滝地区:浸食谷



小滝地区:地すべり



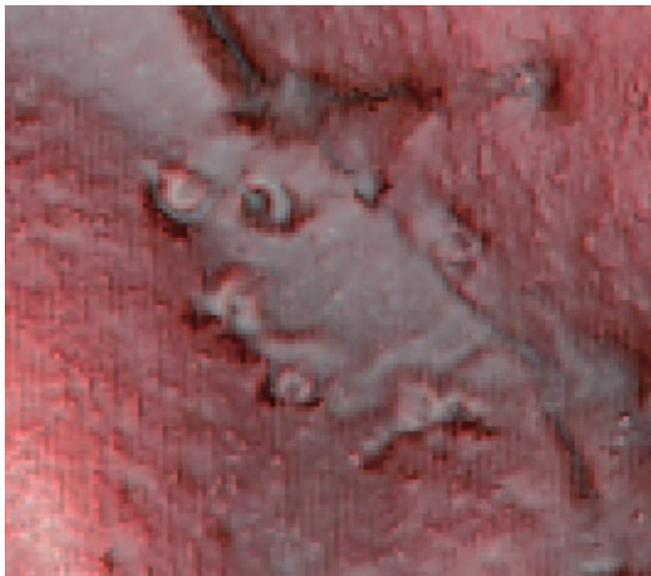
表層崩壊



湧水地形

2. 立体図を用いた地形と遺構の判読
2) 遺構

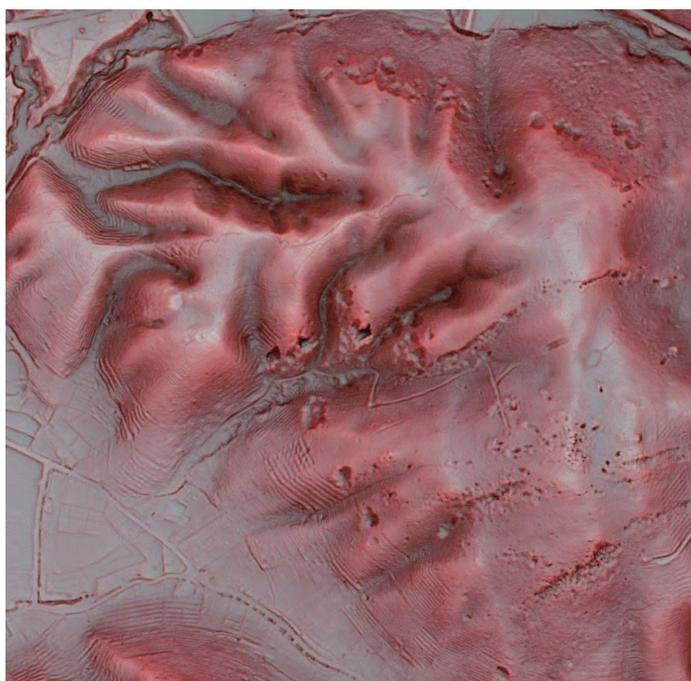
産業遺跡(炭釜跡)



5

2. 立体図を用いた地形と遺構の判読
2) 遺構

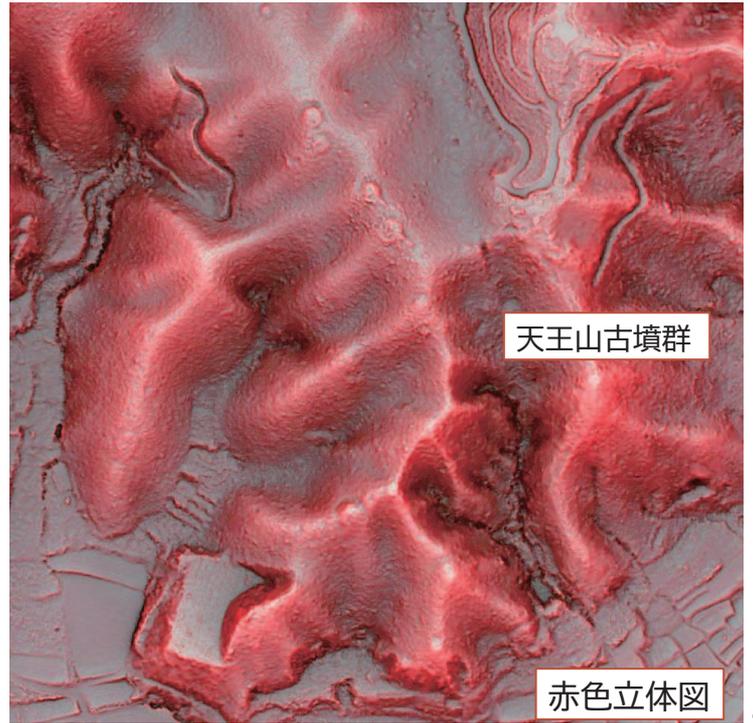
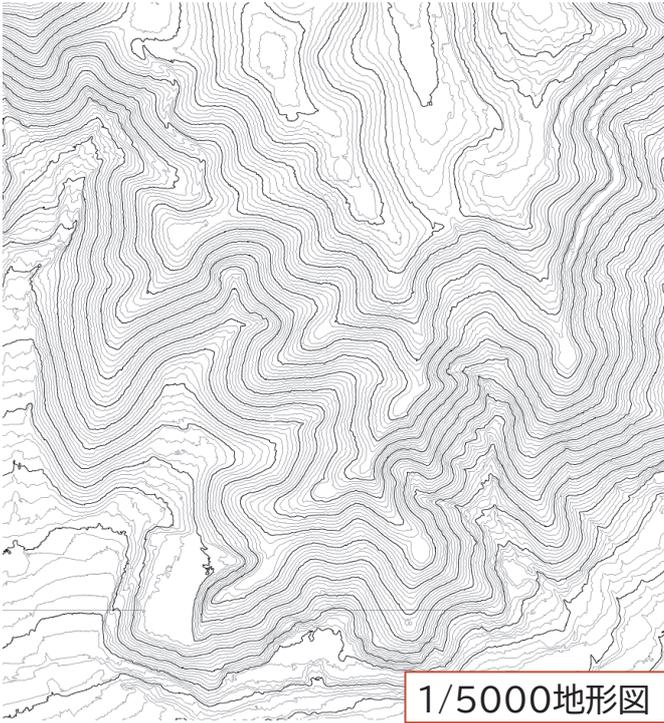
産業遺跡(鉱山跡)



6

2. 立体図を用いた地形と遺構の判読
2) 遺構

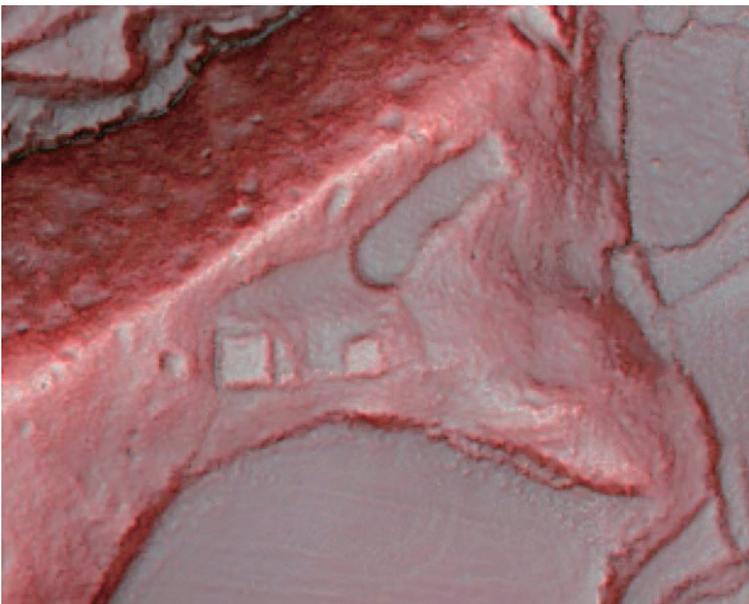
古墳



7

2. 立体図を用いた地形と遺構の判読
2) 遺構

塚

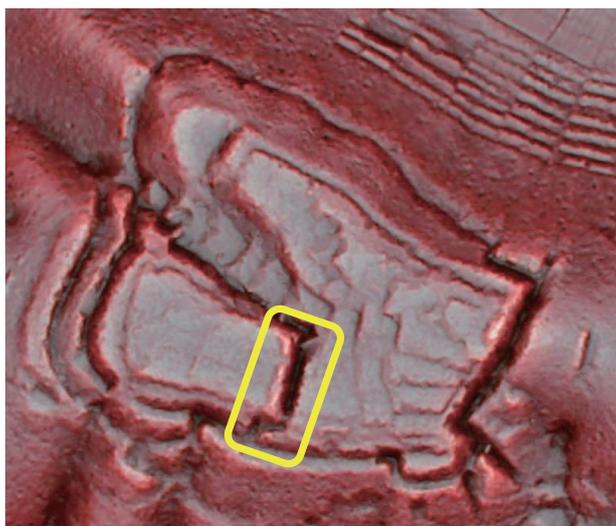


修法壇

小滝の「修法壇」: 白鷹山修験の塚と伝わる

2. 立体図を用いた地形と遺構の判読

2) 遺構



堀と土塁

城館跡



堀跡

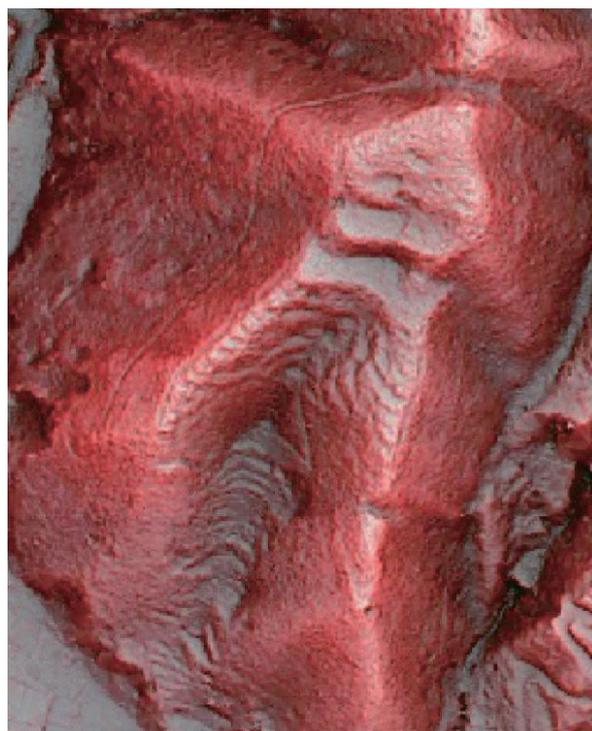
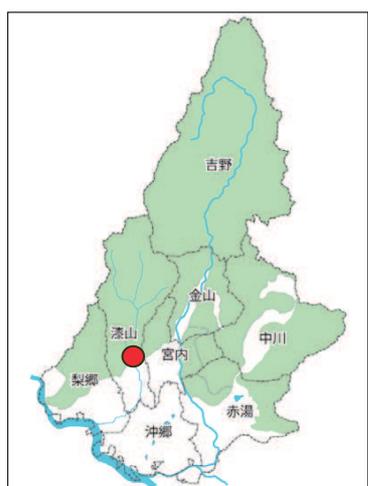


土塁跡

2. ⑤新規発見の城館跡

ア) 池黒館山館(南陽市池黒字上ノ平)

立体図で明らかになった南陽市の城館の例



上の平山の南西、南に延びる枝尾根に立地。最高所は標高約360m。

直下の山裾に「館山下」「館山」の小字名が残る。
(西隣の山が「別所館」であるため、従来、この小字名は別所館由来と考えられていた。)

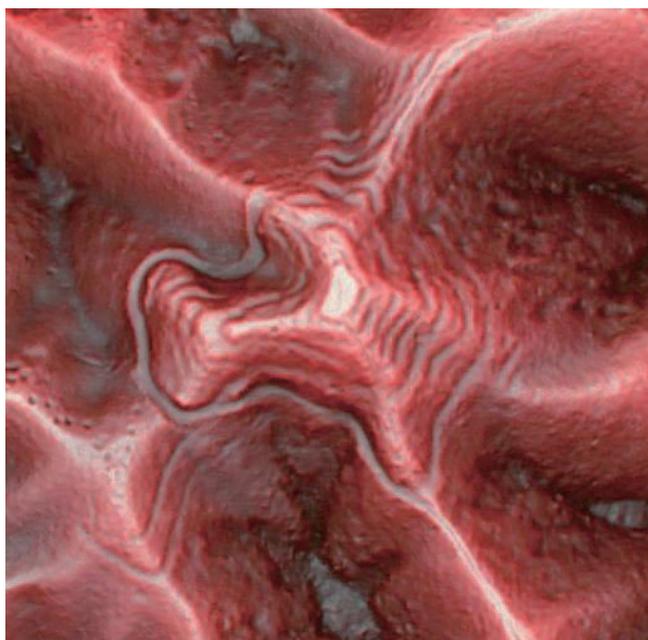
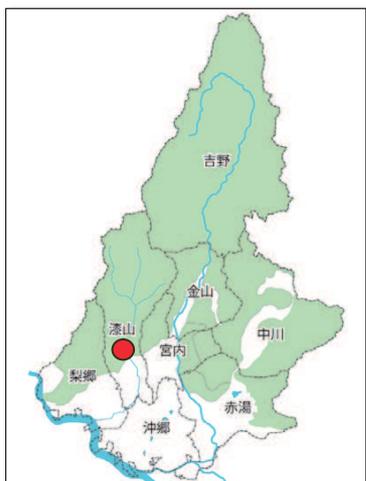
尾根頂よりやや下った地点に二段の大きな曲輪を構築し、その前方の二つに分かれた尾根に階段状曲輪群を設ける。背後に大きな竖堀を配する。

縄張は全体に高畠町志田館に類似する。

2. ⑤新規発見の城館跡

立体図で明らかになった南陽市の城館の例

イ)大滝沢館(南陽市漆山字新山、屋敷浦、深沢、館ヶ沢、大滝沢、雪ヶ沢)



漆山珍藏寺の北方約960mの、山頂に立地する。

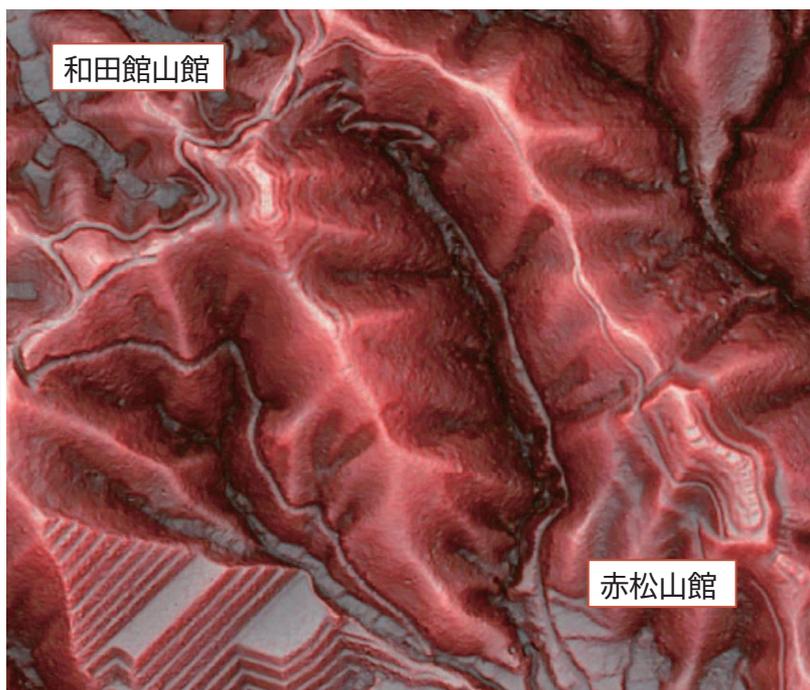
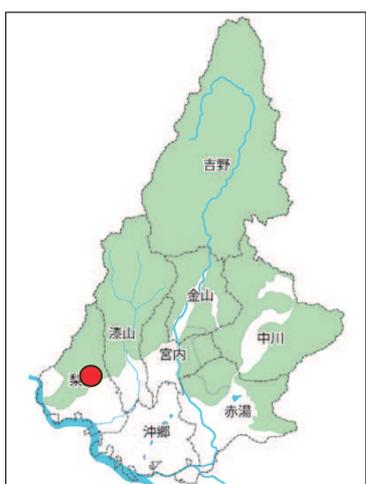
標高約460mの主郭に虚空蔵を祀る石祠(天明八(1788年))一基がある。

令和3年度の広域分布調査で発見。令和5年度測量調査を実施、赤色立体地図により城館遺構の範囲や形状が明確になった。

11

2. ⑤新規発見の城館跡

ウ)和田館山館(南陽市和田字館山二・字元山一、竹原字鈴之切)



和田の山中に立地。尾根南端に片岸館跡があり、谷を挟んで東側にある枝尾根に赤松山館跡がある。

主郭は標高408 mに位置し、規模は東西約140 m、南北約183 mである。

字七曲りの谷奥に館跡に続くつづら折りの坂がある。

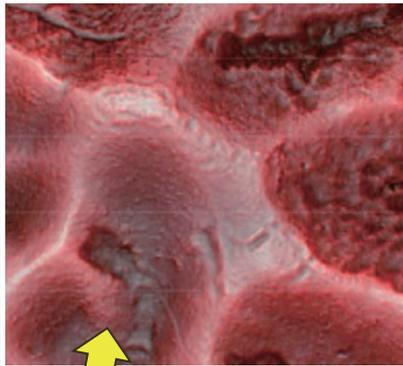
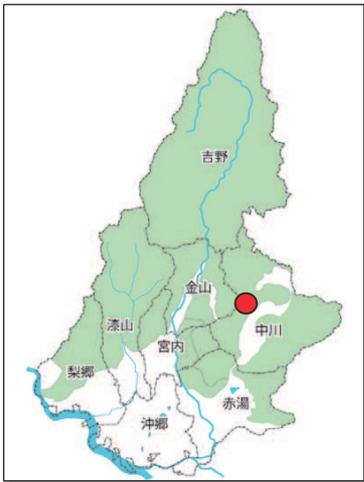
形は大滝沢館跡に似ており、隣接する赤松山館跡とは異なる。

12

2. ⑤新規発見の城館跡

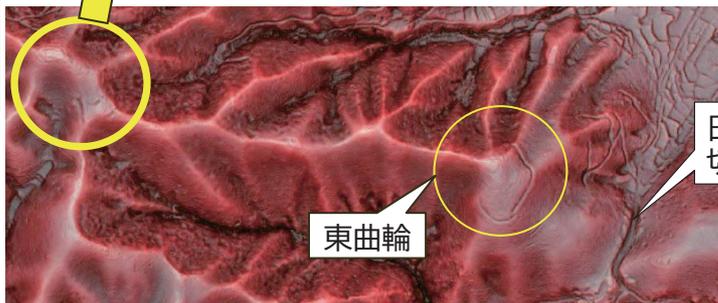
工)鷹戸山館(南陽市川樋字北沢、元中山字日影、釜渡戸字東立山、金山字砥石沢・字南沢)

立体図で明らかになった南陽市の城館の例



標高617.9m、比高約330mの山頂に主郭を置く。主郭からは上山方面のほか、小滝街道までも見える。尾根道を通じて四方の複数の城館を繋ぐ結節点のような位置にある。

尾根東端にも城郭遺構があり、日影坂の切通しを眼下におさめる。山頂は4地区の境となっており、釜渡戸地区側の小字名「(南・東・西)立山」は、館山から変化したものと思われる。また館跡の南端には小字名「下七曲」が残る。

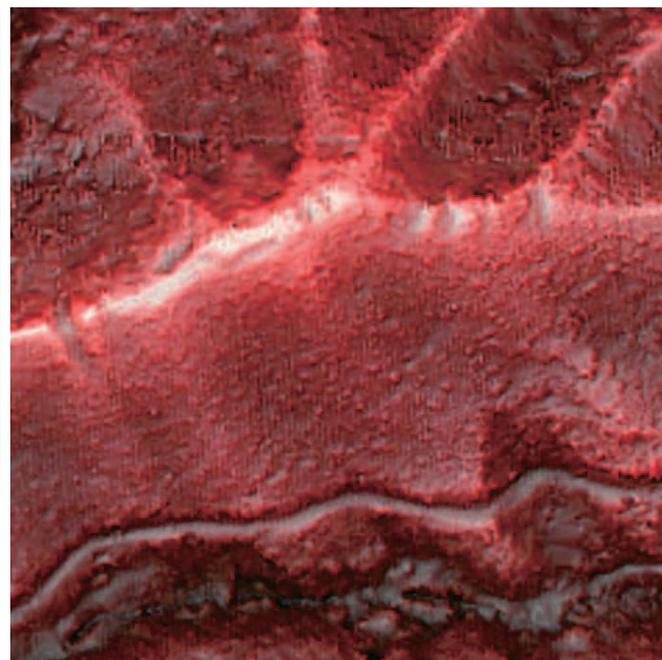
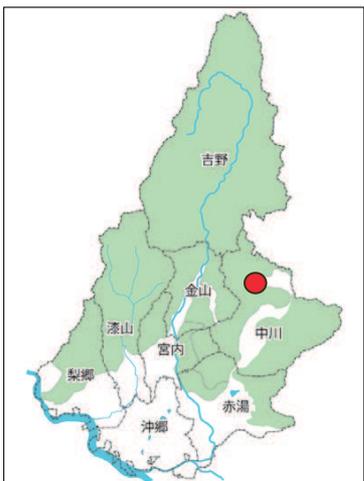


13

2. ⑤新規発見の城館跡

才)鷹戸山東館(南陽市元中山字日影)

立体図で明らかになった南陽市の城館の例



鷹戸山山頂から北東に伸びる枝尾根の標高525mに主郭を置く山城。

規模は東西約260m。小規模な館跡である。

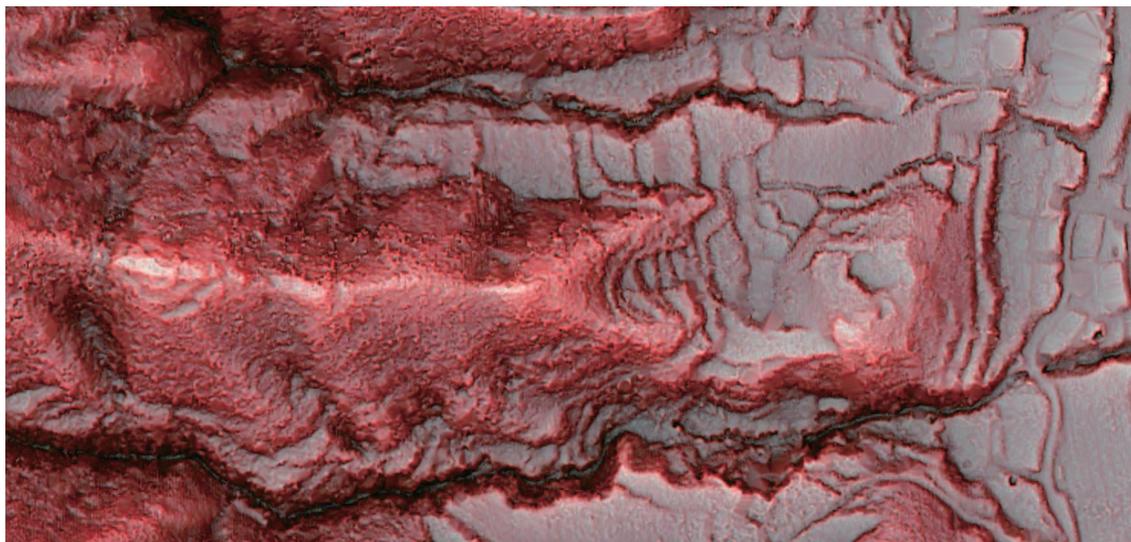
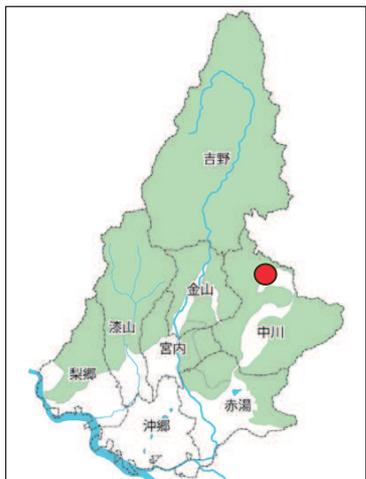
細尾根上に曲輪を多段に配置し、米沢街道(日影街道)が通る東からの侵攻に備える。

主郭西側に堀切を有し、その西側の尾根道は鷹戸山館へ続く。

14

2. ⑤新規発見の城館跡 カ) 日影館の山城部

立体図で明らかになった南陽市の城館の例

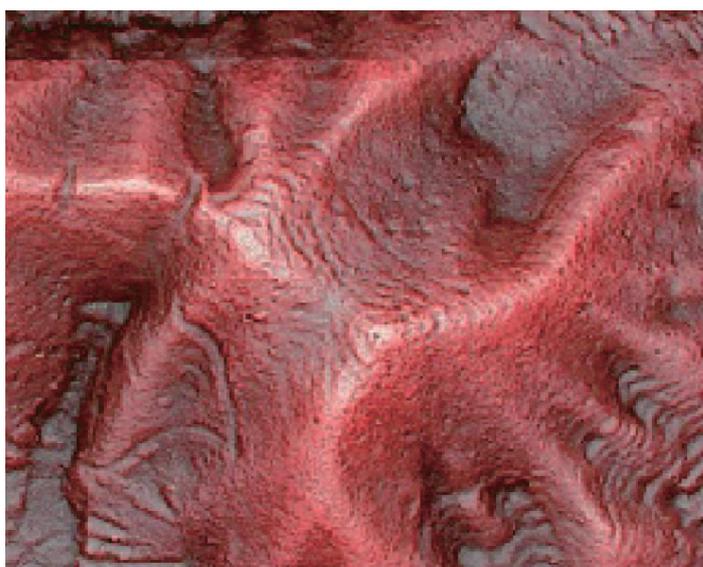
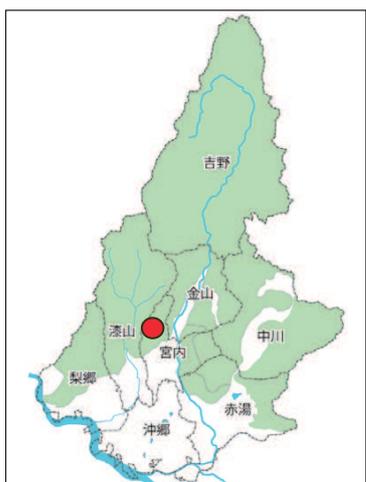


日影館は、日影地区の西端に位置する。
従来知られていた館の背後となる山にある山城が発見された。
標高約405mに主郭を配し、日影地区を一望する。

15

2. ⑤新規発見の城館跡 キ) 武道作山館(南陽市宮内字武道作山)

立体図で明らかになった南陽市の城館の例



宮内南館の北西、宮沢城の西にあたる山の尾根に築かれている。

二つの尾根頂を使った複郭状の館跡で、西方の尾根に間隔を置いて二本の堀切を配している。

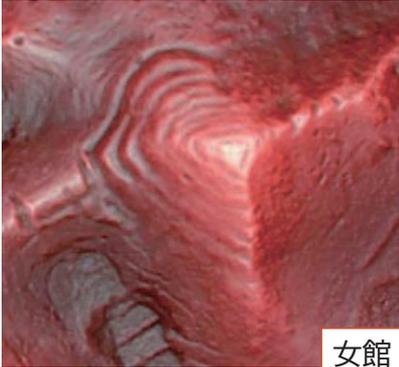
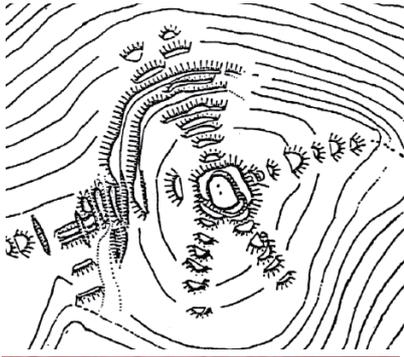
主郭からは高畠から米沢方面まで一望できる。

宮沢城に関係する山城と思われるが、この山には安倍貞任と戦った源氏が造った「宮内の武道柵」という伝説が伝わっている。

16

3 南陽市の山城(紹介)

1) 縄張図と立体図 ⇒ 略図



女館

< 縄張図 >

主観が入る。地形の傾斜や高さを強調することで視覚的に遺構がわかりやすいよう描かれる。立体図では自然地形に見える起伏やレーザ光の測点数の不足から表現されない遺構も、踏査で城郭遺構として認識して描くことができる。
一方で斜面の高低差を強調するため面積が実際と大きく異なる場合もある。

< 立体図の良い点 >

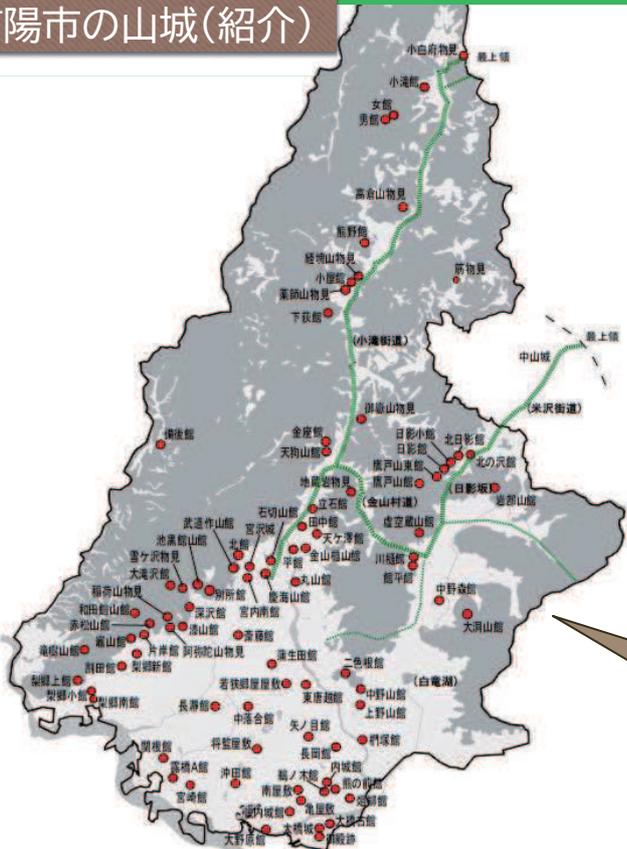
主観が入らない。遺構の正確な位置・面積・距離・角度等。踏査で見逃した遺構を見つけることもある。

※新しい技術である立体図をどううまく活用していくか。

※南陽市教育委員会では、縄張図と立体図の利点を相互に活かすことを模索し、立体図を縄張図の下書きとする「略図」の作成を試みた。

⇒立体図に透過レイヤーを置き、縄張図作成の手法を準用して作図。

3 南陽市の山城(紹介)



吉野地区11か所
金山地区11か所
宮内8か所
漆山10か所
梨郷10か所
沖郷16か所
赤湯10か所
中川12か所
合計88か所

最上との国境～
小滝街道沿い

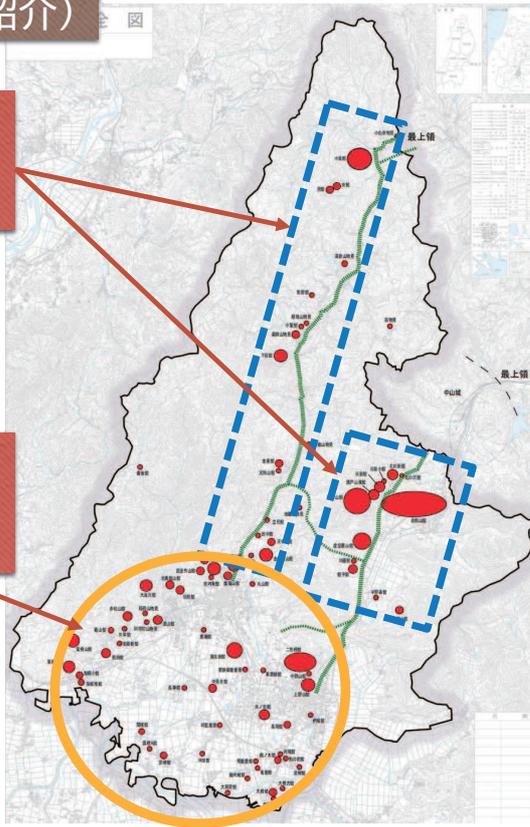
最上との国境
(米沢街道)

約6割が山間地
の城館遺跡

3 南陽市の山城(紹介)

最上境、街道沿いの城館・物見群

平地部や山地の城館群



最上領との国境地域

ア) 国境を守る城館

・小滝館、岩部山館など

イ) 最上からの侵攻を防ぐ城館群と危機を知らせる物見(狼煙)群

南陽市内の城館の変遷

① 国人(地方武士)の城館群

・宮沢城(大津氏)

・二色根館(栗野氏)

② 置賜に侵攻してきた伊達氏を抑えるために配置された武将の城館

・大橋城(湯目氏)

・宮内北館(遠藤氏)

③ 伊達氏家臣の城館

・梨郷上館(増田氏)

④ 蒲生氏家臣の城館

・上山市の中山城(蒲生郷可)

⑤ 上杉氏家臣の城館

・平館(色部氏)

鎌倉～室町

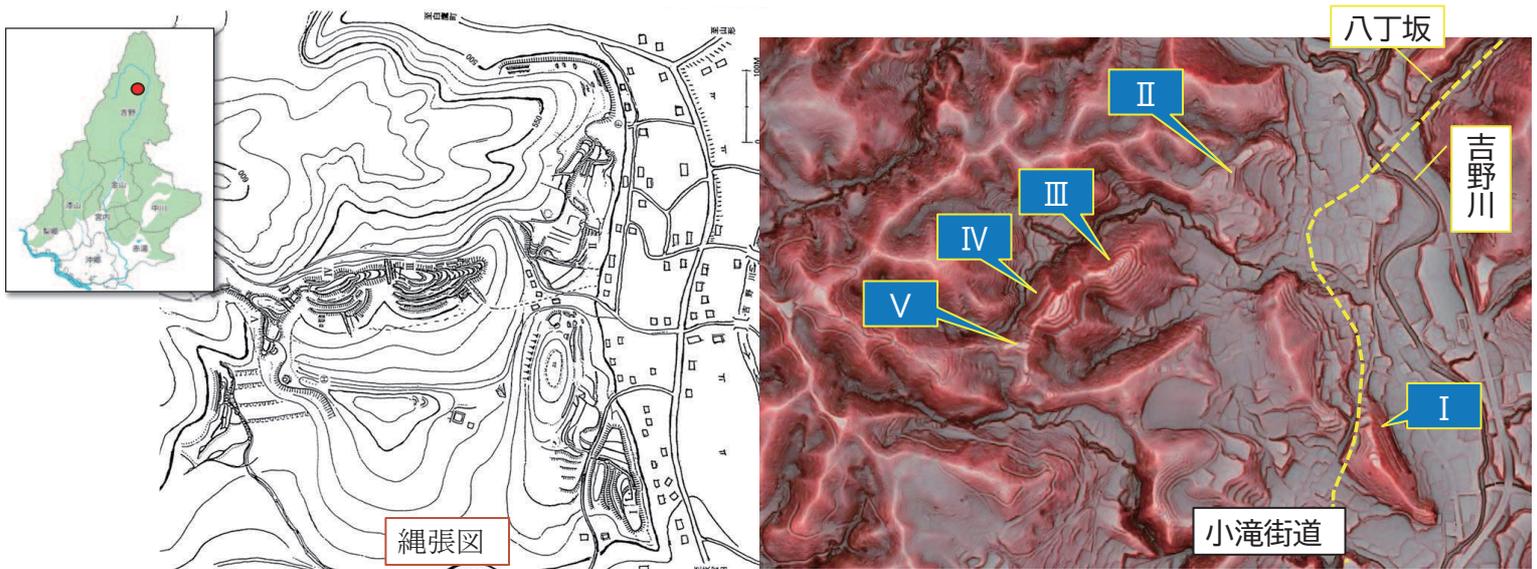
戦国

江戸

3. 南陽市の山城(紹介)

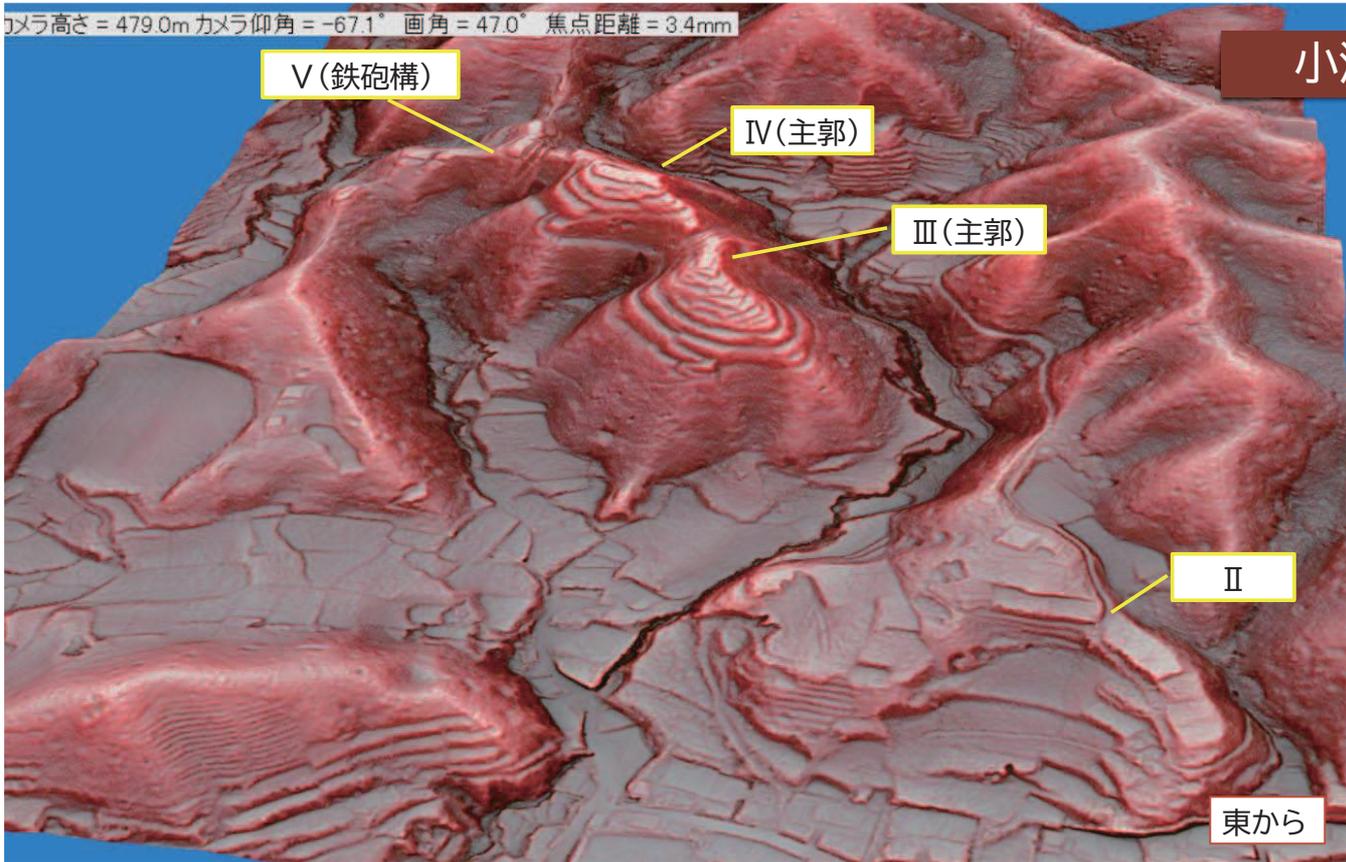
2) 南陽市の山城 ① 小滝館

小滝館



小滝館は、小滝地区の西方の山地に位置する。最上との境目の城で、八丁坂方向からの侵入に対して嚴重な構えを見せる。吉野川を外堀とし、集落内の水路を中堀、主郭の周囲の谷川を内堀とする。明神山と薬師山の曲輪群(I)、袖小屋周辺の曲輪群(II)、山城部の曲輪群(III~V)に大別できる。主郭は連郭式で複数の堀切で区画される。遺構の残りが良い大規模な城館跡。

カメラ高さは 479.0m カメラ仰角 = -67.1° 画角 = 47.0° 焦点距離 = 3.4mm

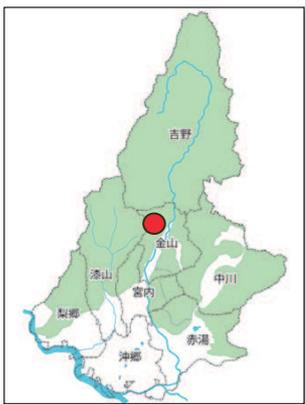


小滝館

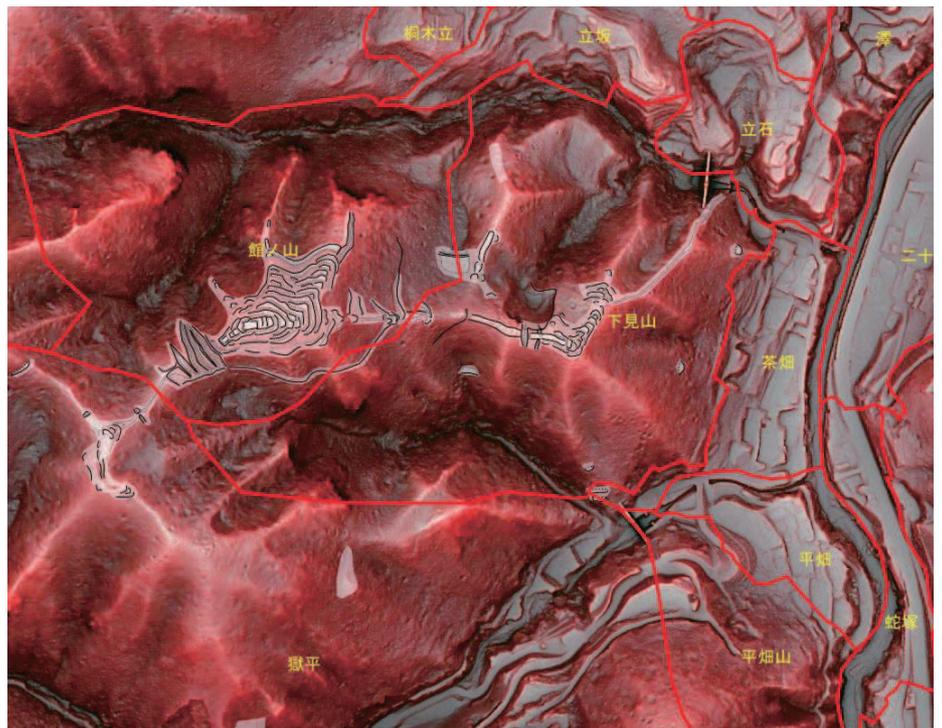
東から

3. 南陽市の山城(紹介)

2) 南陽市の山城 ② 下荻館



下荻館



下荻館は、下荻字館の山、字下見山、太郎字獄平に位置する山城である。曲輪はⅠ～Ⅲ群に分かれる。物見の役目を果たすⅠ群は標高約448m、主郭のⅡ群は標高526m、最も高所にあたるⅢ群は標高562mで麓からの比高は約216mとなる。小滝から宮内に至る小滝街道の中間地点付近に築かれ、街道を守る重要な城館であったと思われる。

カメラ高さ = 1158.0m カメラ仰角 = -137.8° 画角 = 32.0° 焦点距離 = 76.4mm

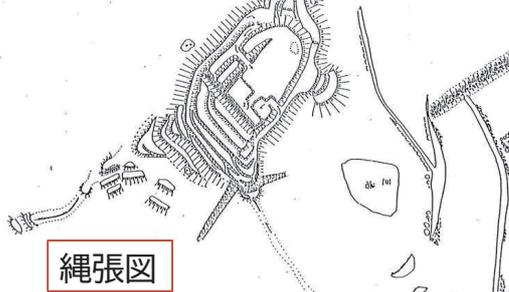
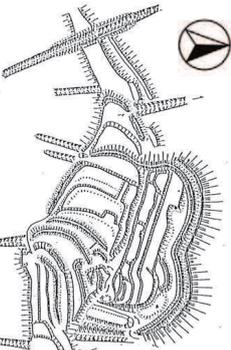
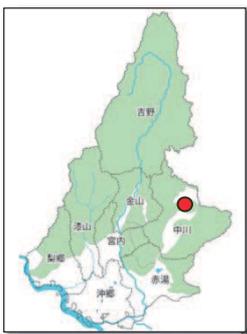
下萩館



北から

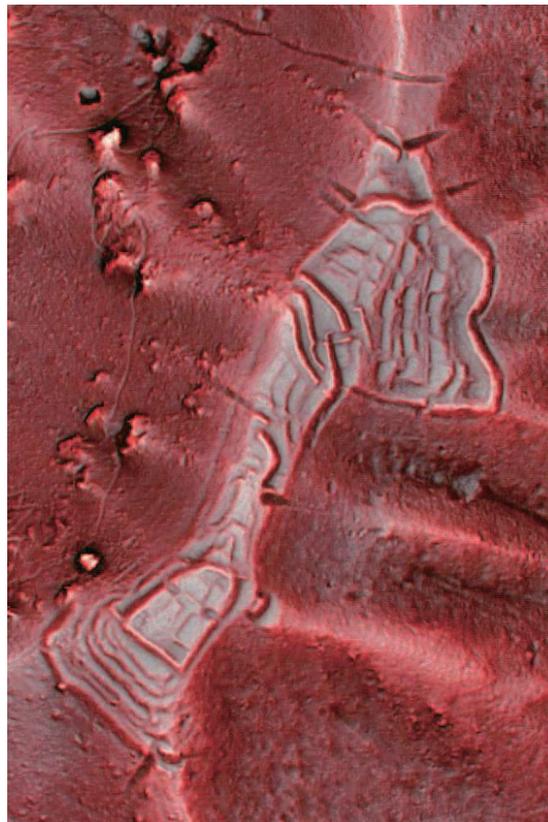
3. 南陽市の山城(紹介)

2) 南陽市の山城 ③ 岩部山館



縄張図

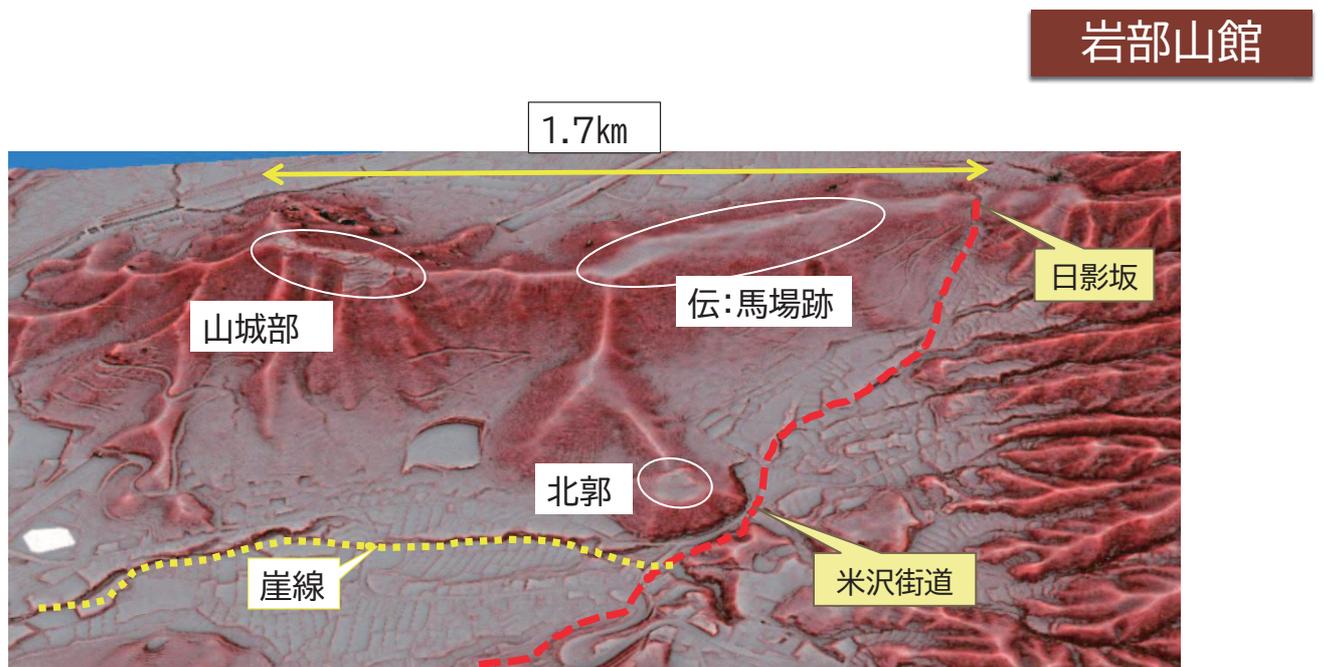
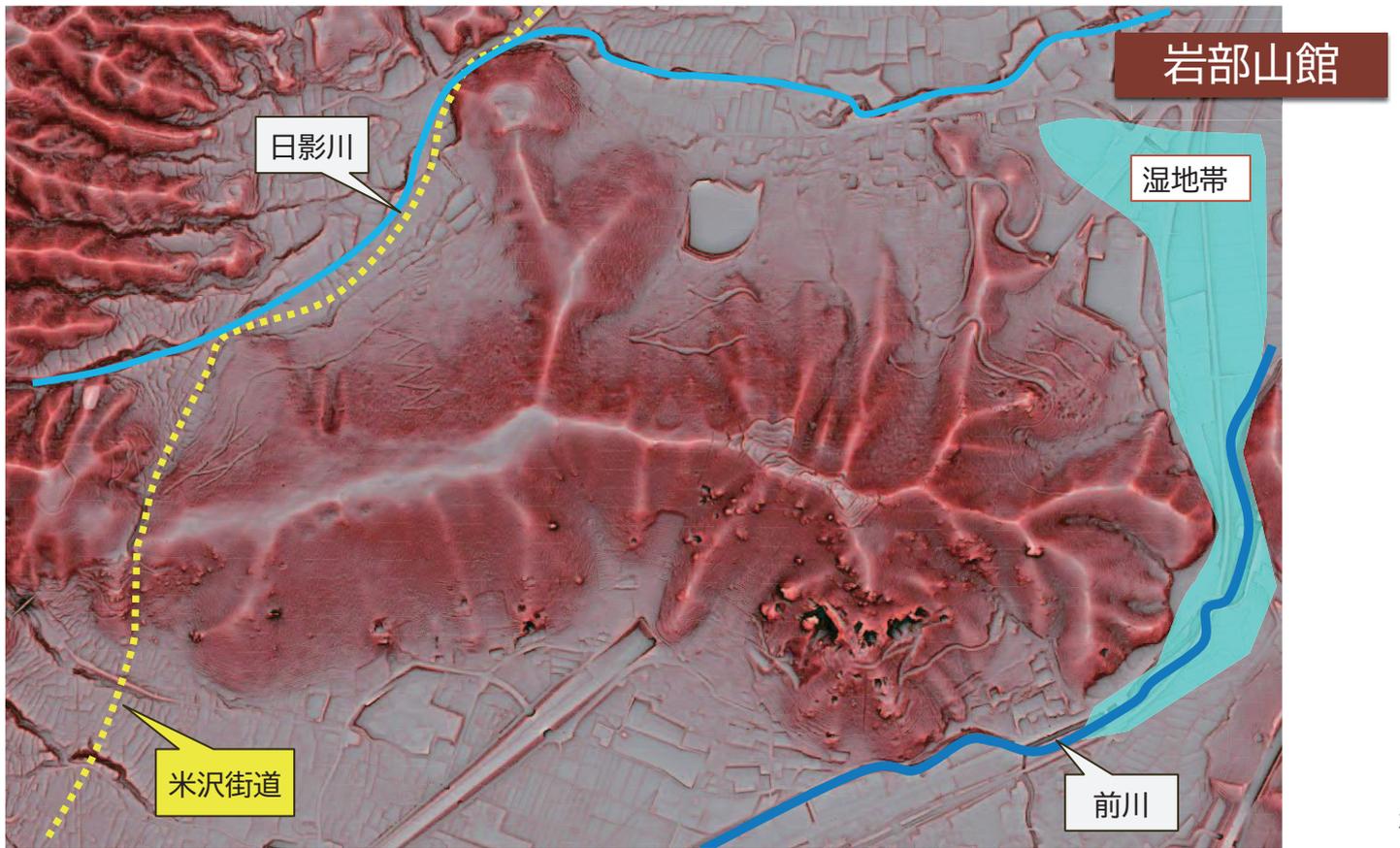
岩部山館



岩部山館は、別名月見ヶ城とも伝わる。標高506m、比高約250mの岩部山山頂に主郭を置く山城である。

岩部山東半が主郭のある山城で、山の西半は自然地形を活かした馬場跡と言う。

最上境を守るうえで重要な伊達氏の要害で、当時の米沢街道(日影街道)を意識した立地となっている。



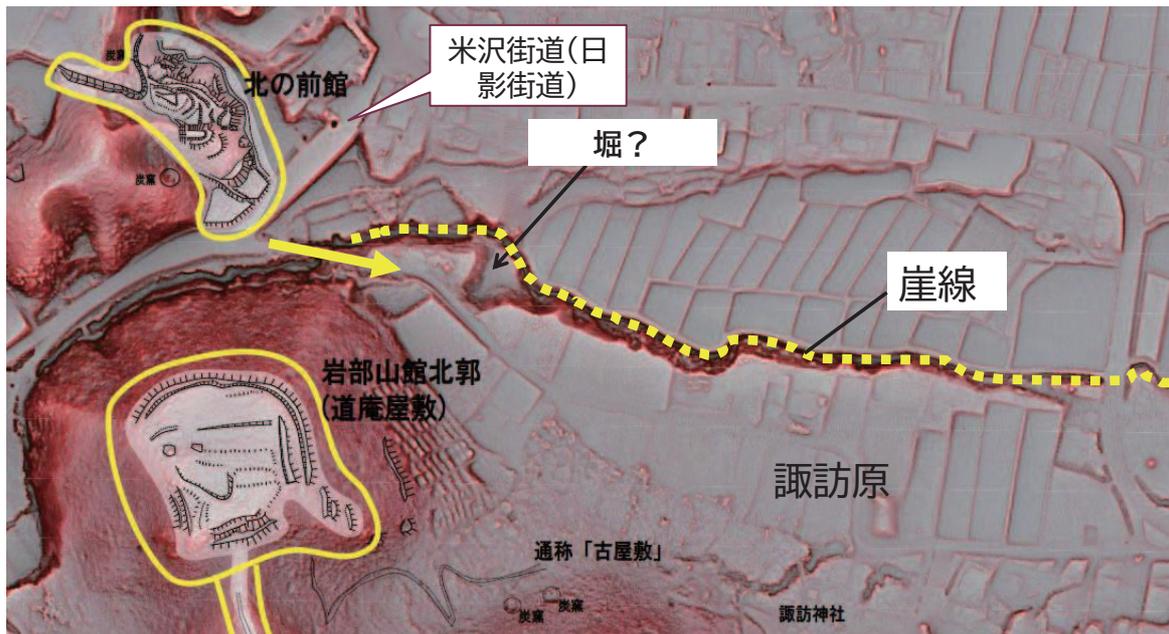
日影在家と代ノ在家 →粟野氏の所領。
五軒在家 →小梁川氏(高畠城)の所領。



慶長年間に上杉家臣により諏訪神社が建立されたことに由来。
以前はここが「五軒在家」だったか。

晴宗采地下賜録(1553年)には、屋代中山に、ひかげ在家、たいの在家、五軒在家の在家名が記されている。
⇒五軒在家だけ地名が残っていない

諏訪原を守る崖線と堀？

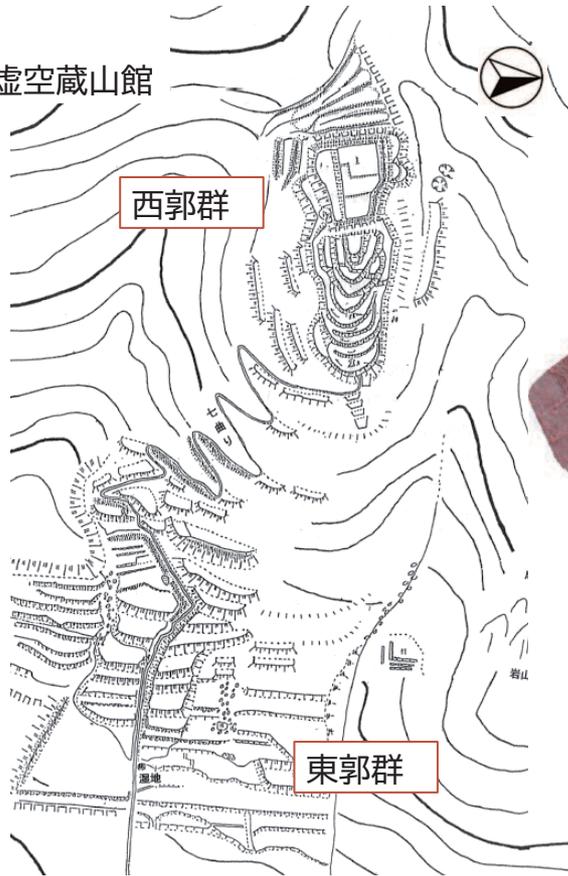


3. 南陽市の山城(紹介)

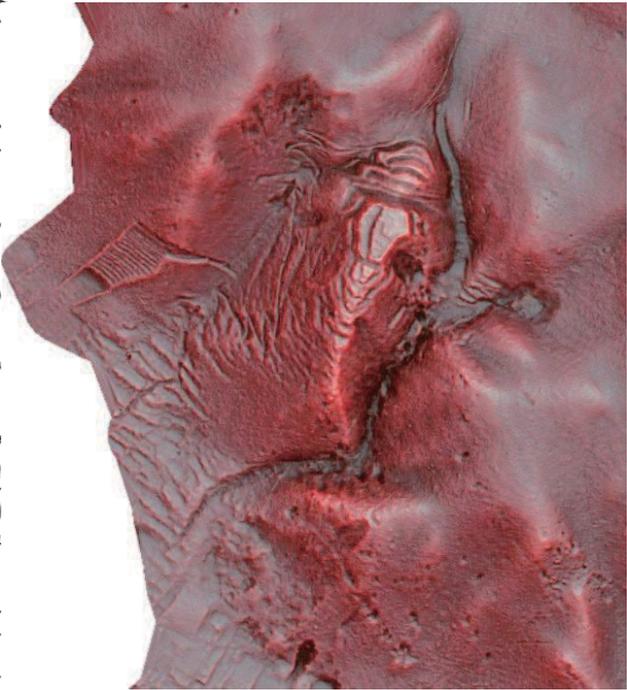
2)南陽市の山城 ④虚空蔵山館



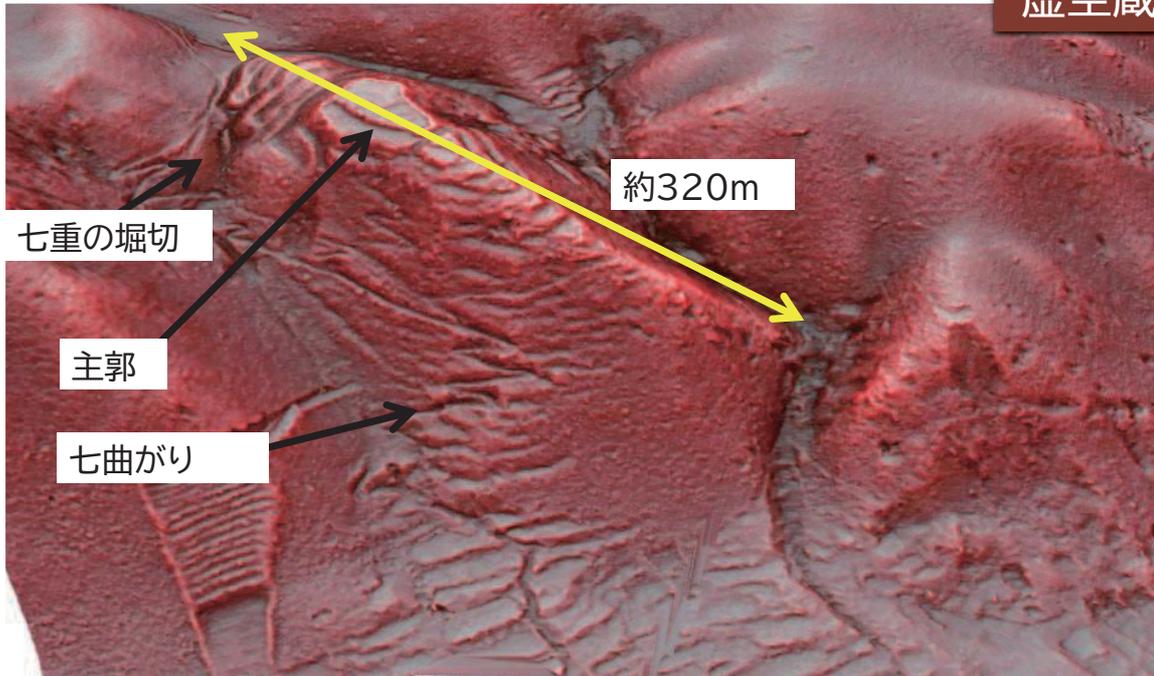
虚空蔵山館は、別名星見ヶ城とも言われ、標高450mの山頂に主郭を置く根小屋式山城である。主郭は複郭式で東側に階段状帯曲輪を連ねる。主郭の背後は七重堀切を有する。麓には根小屋地名が残る。



虚空蔵山館



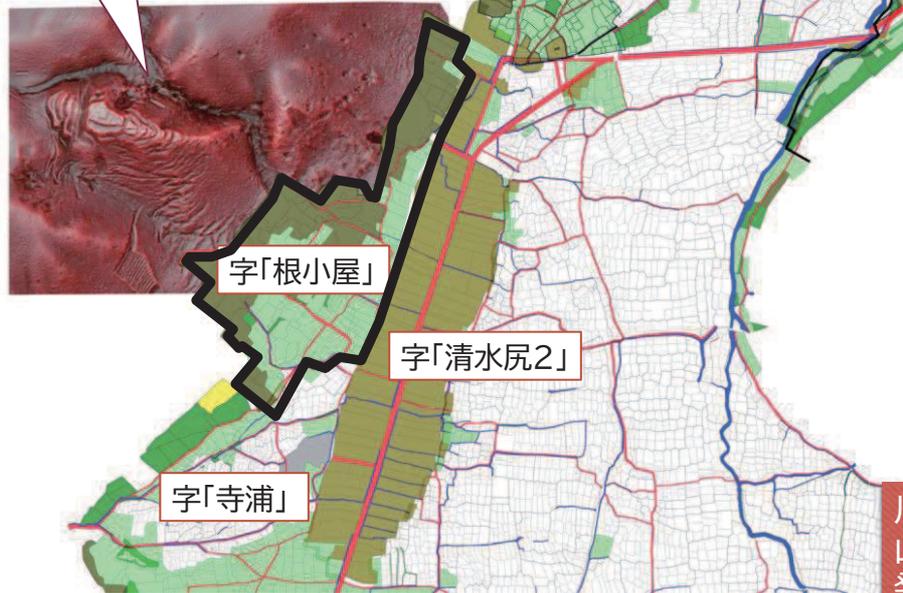
虚空蔵山館



麓に根小屋

虚空蔵山館

虚空蔵山館



川樋地区は、虚空蔵山館の根小屋から発展した町か？

31

3. 南陽市の山城(紹介)

2)南陽市の山城 ⑤二色根館



縄張図

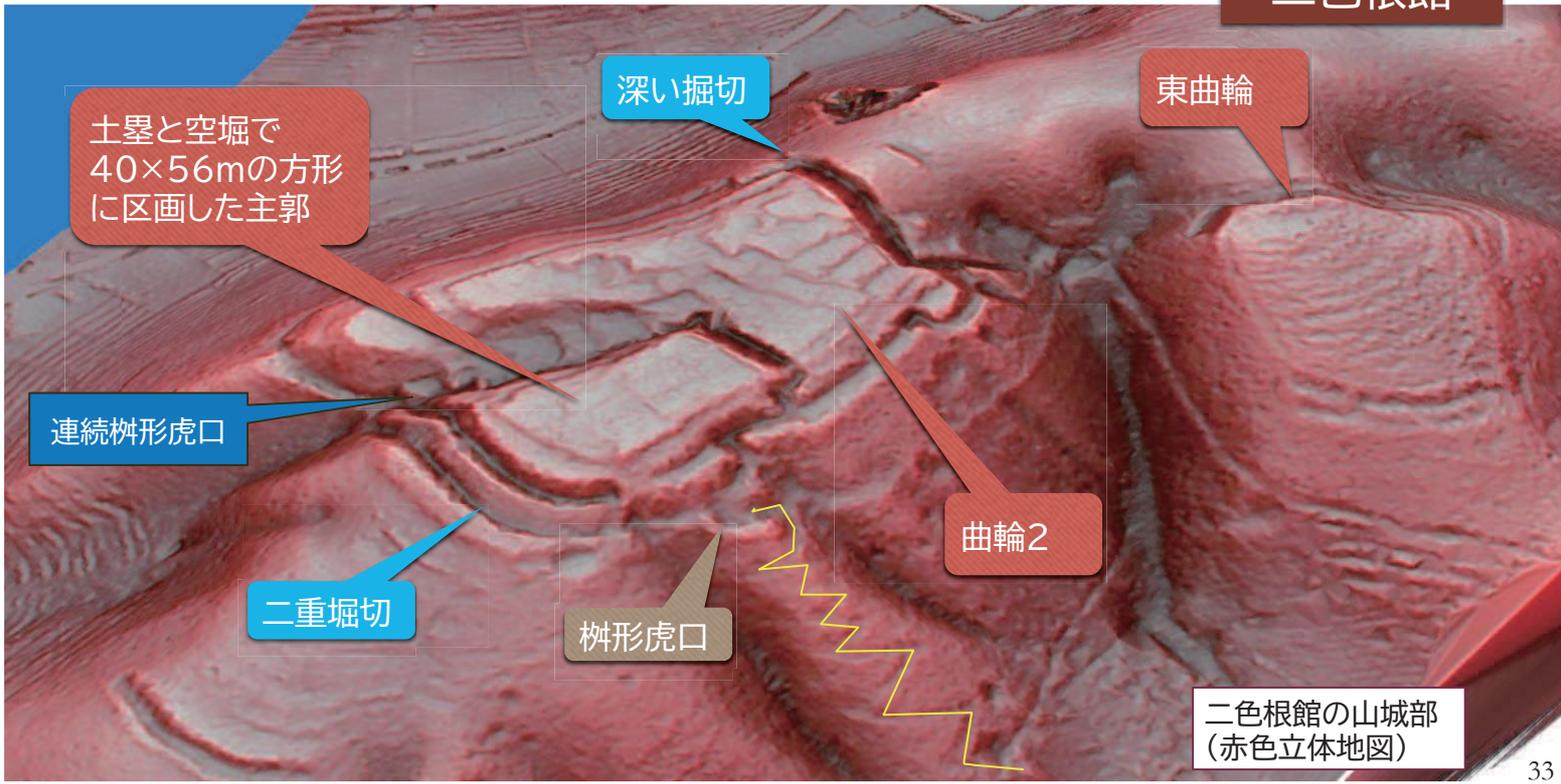
二色根館



二色根館は、赤湯の通称「二色根山」に立地する。山裾に根小屋集落を抱える根小屋式山城である。主郭は西と東に分かれる複郭式。伊達家臣の粟野氏の居城として知られる。粟野氏は伊達氏の一族であるが在地性が強く、主に中川～宮内を領した。粟野藤八郎が天正十八年(1590)に伊達家を出奔し、二色根館は廃されたとみられている。

32

二色根館



二色根館

